

計画素案に対する意見聴取結果

No	意見内容	対応	修正箇所
①	全般的にタクシーに関する記載が少ない。タクシーが市内外の公共交通の活性にどう貢献できるかの記載がもう少し必要ではないか。	タクシーの運行状況・タクシーの満足度等を追記いたします。	P2-28、2-35、4-9
②	地域公共交通の活性化及び再生に関する法律 第5条4項では「地域旅客運送サービスについての利用者の数及び収支その他の国土交通省令で定める定量的な目標を定めるよう努めるものとする」とあるので、収支についても言及していただきたい。	<p>計画素案を検討するにあたり、収支を目標と設定するために必要な収支状況の情報提供について、各交通事業者様との協議が整わず収支を目標設定とすることは難しいと判断いたしました。</p> <p>また、「地域公共交通計画等の作成と運用の手引き」にて、目標指標が「公的資金が投入されている地域旅客運送サービス事業の収支率」とあり、本市において公的資金を投入しているのはコミュニティバスのみと限定的であり、基本理念・基本方針との繋がりが薄いため、本計画において収支については触れず市内の鉄道・バス利用者数を具体的な目標指標として評価していきます。</p>	-
③	上記に関連し、4-2-2においてバス路線を見直すトリガーとして収支について目標値を記載してはどうか。	同上とします。	-
④	目標を達成するための各実施事業は毎年進捗状況を協議会で共有すべきであり、見直し時期を5年後に設定するのではなく、状況如何によっては適宜見直すべきと考える。	見直し時期は5年後を基本に設定しますが、毎年の協議会において見直しの必要性について評価を行い、適宜必要に応じて見直しを検討いたします。	-
⑤	今年度に第4次吹田市地域福祉計画の策定を予定しているため、2-21および2-22の記載については、同計画の内容を反映したものに改める。	左記を踏まえ、修正いたします。	P2-11、2-23、2-24
⑥	課題①と課題②を入れ替えてはどうでしょうか。高齢者の増加が見られる⇒利便性向上による利用促進としたほうがストーリー性があるのでは。	「利便性向上による利用促進」は老若男女に関する課題のため、この記載のままとさせていただきます。	-
⑦	「都市モビリティが一体的に機能するとともに多様な手段と連携した」基本理念は短くわかりやすいものにしてはどうでしょうか。長くてわかりにくいと思います。	左記を踏まえ、基本理念を以下の内容にいたします。 「いまある公共交通を守り、多様な手段と連携し、未来へつなぐ公共交通」	P3-1、4-1、5-1
⑧	目標が2つありわかりにくいので「中間目標」としてはどうでしょうか。	左記を踏まえ、修正いたします。	P3-4~3-9

⑨	利用者が減少していることを具体的な数字を挙げて説明を加えたほうがよい。中間目標が下がっている説明につながるためにも。	コロナ禍におけるバス利用者の減少は、一般的に認知されている事象ではありますが、具体的な数字を挙げることは難しいためこのままとし、P3-4に説明を追記いたします。	P3-4
⑩	目標7を目標1にしてはどうでしょうか。やはり一番の指標は満足度と思います。	目標1～目標6は、具体的・直接的な目標を優先して配置しており、目標7は、総合的な目標であるため、今のままの配置といたします。	—
⑪	事業2、事業3、事業8も交通結節点の機能の向上につながるのではないのでしょうか。	左記を踏まえ、修正いたします。	P4-2
⑫	ポータルサイトを創設し鉄道事業者やバス事業者の情報を一元化してはどうでしょうか。	今後の参考といたします。	—
⑬	用語集をいれてはどうでしょうか。	計画策定時に用語集をいれる予定です。	—
⑭	人口の移動（他市町からの流入、市内での移動、人口減等）を考慮した計画づくりを考えていただきたい。市内の移動で交通の便利（特に駅）などところに人が住み、便利の悪く建物築年の古い団地等が廃墟になっているところもある。地図上で公共交通網を網羅することにこだわらず人口の動きをリアルタイム（1～2年で建物が立ち人が移り住んでいる）で把握しておかないと5年後の計画が土台からくずれてしまうこともあります。近年、高齢化に加え、若い人が車を持たない（現にマンションで戸数分駐車スペースのないものも多い）傾向もあり、鉄道網内に人が住まいを求めていることもあります。現状把握だけでなく、将来をみすえた（あるいは推測した）ビジョンを描く必要があるのではと思います。	本市は、2030年頃に総人口のピークを迎え、その後減少局面に入ることが予測されています。一方で、少子高齢化は確実に進展しています。こうした中、総合計画では、「だれもが安心してすこやかで快適に暮らしつづけられるまち」を将来像として描き、それを実現するための都市づくりの具体像を都市計画マスタープランや立地適正化計画等として将来ビジョンを描いております。本計画は、先に挙げた上位計画の将来ビジョンに合致し、持続可能な公共交通を実現するため、各種の取り組みを計画しております。一方で、社会環境の急激な変動も的確にとらえるため、必要に応じて計画を見直しながら、進捗を図っていきます。	—